

ねらい

感情的にならずに、心をしずめて穏やかな気持ちになることのよさに気づき、お互いのことを理解し、尊重しようとする心情を育てる

導入

「誰かにすごく腹を立てたことはありませんか。」
・ある ある

けんかになってしまった時の事などを口々に話し、手を挙げて発表する雰囲気にならなかった。

発問①

「あき子の小さい声を聞いて心が少し揺れたとき、ともみはどんなことを考えていたでしょうか。」
・悪いと思っているのかあ 許してあげようかな
・謝ってすむ問題じゃない 許せない

ここに至るまでのあき子の様子を追っていないので、なかなか考えが深まらない。

発問②

「あき子の悲しそうな顔を思い浮かべ、じっとしていられなくなったともみは、どんな気持ちだったでしょうか。」
・ちよつと怒りすぎちゃったかな
・仲直りしたいな

お兄さんとのやりとりからともみの気持ちが変わるので、「変な気持ちになった」という部分をしっかり押さえない。

発問③

「あき子の家を目指して走るともみは、どんなことに気づいたのでしょ。」
・あき子は何回も謝ってくれた
・はやく許してあげればよかった

一つ一つの発問に児童が答え板書していく授業で個々の考えが共有されづらい。

見つめよう 生かそう

「心をしずめるということとは、どういうことでしょうか」
・許してあげようと思うこと
・一人で静かに考えること

板書に「許すか許さないか」という話し合いの結果を残してあったので、最後までそれをひきずる児童が多かった。

終末

「腹が立つこともあると思うけど、相手のことを考えて許してあげる気持ち大切です。」

